

ICM データベース サイズ推定ツール -- [Advanced] タブのフィールド

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[\[Advanced\] タブのフィールド](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ICM 環境で Cisco Intelligent Contact Management (ICM) データベース サイズ計算ツールの [Advanced (詳細設定)] タブのフィールドについて説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco ICM
- Microsoft SQL データベース

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ICM バージョン 4.6.2 以降

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

ICM データベース サイズ推定ツールは、ロガーや Historical Data Server (HDS) データベースのサイズ要件を推定するために使用されます。ICM データベースは、推定を実行するために管理ワークステーション (AW) 上で実行する必要があります。予想される発信トラフィック、予想される構成、希望するデータの保持期間を入力できます。ツールは、推奨されるデータベース サイズを動的に計算します。

1. [Start] > [Run] の順に選択します。
2. ICMDBA と入力します。
3. [OK] をクリックします。[ICMDBA] メイン ウィンドウが表示されます。これは、現在のドメインに ICM データベース サーバを表示するツリー階層です。
4. データベース サーバをドリルダウンします。名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックして、サーバを展開します。これにより、サーバ上にデータベースがある ICM インスタンスが表示されます。
5. そのインスタンスのデータベースを含むマシン上で、特定の ICM ノード、ディストリビュータとロガーを表示するには、ICM インスタンスを展開します。
6. データベースを右クリックし、[Estimate] を選択します。図 1 : ICMIPCC : ICMDBA --- データベース サイズ推定ツールのアクセス ICM データベース サイズ推定ツールが表示されます。図 2 : 概算見積書 --- ICMDBA データベース サイズ推定ツール

[Advanced] タブのフィールド

[Advanced] タブには、3 つのフィールドがあります。

1. **Overhead Factor** : これは、最終結果を取得するために推定値を乗算した値です。データベースが半分満杯の状態になっているのが理想的です。したがって、デフォルトのオーバーヘッド要因は「2」です。
2. **Average Events Per Day** : これは、1 日あたりに発生が予測されるイベントの推定平均数です。デフォルト値は 10,000 です。他のテーブルとの比較では、このテーブルの領域の使用量は、推定することが困難です。したがって、それは過去の傾向に基づいて計算されます。
3. **Variable Percent Used** : これは、データベースの可変長フィールドのサイズを計算するために使用されます。これは、計算で使用される可変長フィールドの最大長の割合です。デフォルト値は 25 % です。これは、ペリフェラル可変を使用すると便利です。デフォルトでは、合計 10 個の 40 バイト可変があります。この数字は、合計 400 の有効バイトの利用可能な割合を表しています。

図 3 : [Advanced] タブのフィールド

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)